

～現場見学会への助成について～

北海道建設業信用保証㈱では、「道内建設業担い手確保助成事業」の一環として、(一社)北海道建設業協会と協働し、道内各地で開催する建設業現場見学会等に助成しています。

2023年度までの5か年事業として進めてきました当社の道内建設業担い手確保助成事業は最終年度を迎えています。昨年度までの実績を踏まえ、建設業団体や教育機関の要望を把握しながら、より一層建設業の発展に寄与することのできるよう助成事業を検討していきます。

その際、(一社)北海道建設業協会が2021年度に実施した現場見学会・現場実習会について取りまとめた報告書も参考に、当社としてもアンケート調査などの実施を検討しています。

(一社)北海道建設業協会の報告書では、参加した児童・生徒の保護者を対象としたアンケートも実施しており「保護者の目線」という観点から貴重な分析が示されています。建設業への就職に関しては大半の保護者が前向きに捉えている一方で、職場環境のイメージとして「危険」と回答する人も多く、自由記述欄にも「安全上の問題も多い職業」といった言葉が見られます。また、入職の際に最重要視する条件としては「仕事に見合った給料」「しっかりした福利厚生」「規則正しい勤務時間」を選択する人が全体の7割ほどを占めており、処遇・職場環境への関心の高さがうかがえます。

全体を通して、保護者という立場から子供が危険な業務に従事することを心配しており、また、給料や休暇をはじめとする管理が行き届いた労働環境を求めているような印象を受けます。

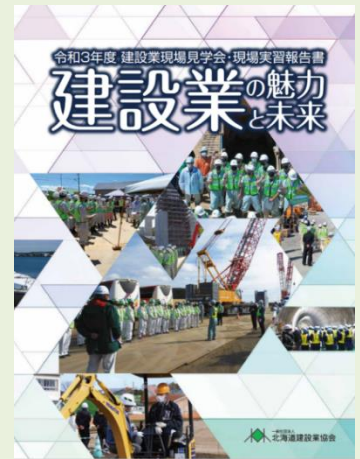
保護者の方々にも、ある部分、建設業への古いイメージが残っているところがあるのかもしれ



ません。今後の担い手確保のために重要なのは、やはり、労働環境の整備や安全管理の徹底といった建設業の取組みについてSNSなどを通して発信することと並行して、現場見学会など各種取組を進めていき、今の建設業の状況を正しく理解してもらうことであると思います。当社としても、関係行政機関・建設業団体と協働し、建設業の役割や魅力の発信に努めて参ります。

参考：「令和3年度 建設業現場見学会・現場実習報告書 建設業の魅力と未来」

一般社団法人北海道建設業協会ウェブサイト <https://www.doukenkyo.jp/pages/6/>



【2022年度 建設業現場見学会等実施一覧（概要）】

	実施日	現場見学会（学校名）	現場名	参加人数
札幌協会	8月4日	札幌建青会 親子現場見学会	石狩川改修工事の内 北村遊水地雁里沼工区周囲堤工事	31名
	9月21日	札幌工業高校 土木科2年	屯田・茨戸通仮称創成川橋（上部工）新設工事（北区屯田）他	72名
	9月28日	札幌工業高校 保護者現場見学会	道央圏連絡道路 長沼南幌道路 南幌町 南13線道路改良工事	20名
函館協会	10月13日	函館工業高校 建築科2年	重要文化財 遺愛学院（旧遺愛女学校）本館保存修理工事	45名
	10月20日	函館工業高校 環境土木科1年	北海道新幹線 渡島トンネル（北鶉）工事	46名
室蘭協会	9月6日	室蘭工業高校 環境土木科2年	登別漁港 他	16名
	9月16日	苫小牧工業高校 土木科1年	苫小牧港西港工区中央北-12m岸壁建設工事 他	46名
	10月14日	室蘭工業高校 建築科2年	（株）カナモト室蘭営業所倉庫建替え工事 他	29名
	10月20日	苫小牧工業高校 建築科1年	令和4年度日新団地市営住宅12号棟新築主体工事 他	48名
小樽協会	7月5日	俱知安農業高校 生産科学科2年	一般国道5号 共和町 新稲穂トンネルR側 共和工区工事	34名
	7月13日	蘭越町立昆布小学校 5・6年生	一般国道5号 仁木町 余市川橋下部工事	23名
	8月27日	後志管内の小学生 5・6年生	一般国道5号 仁木町 仁木トンネル工事 他	40名
	9月5日	小樽未来創造高校 建設システム科1年	一般国道5号 仁木町 余市川橋下部工事 他	33名
	9月16日	進路指導担当の教員対象 現場視察研修会	一般国道5号 仁木町 仁木トンネル工事	41名
空知協会	9月12日	奈井江町立奈井江小学校 3年生	写生会（建設業機械 ホイールローダー） 他	37名
	9月26日	岩見沢農業高校 農業土木工学科2年	北村遊水地 他	34名
留萌協会	7月12日	苫前町立古丹別小学校 5年生	遠隔臨場見学会	7名
	7月21日	留萌高校 電気・建築科2年	力屋防災対策工事現場 他	29名
	8月31日	天塩町立天塩小学校 5年生	遠隔臨場見学会 他	19名
旭川協会	6月3日	旭川工業高校 建築科3年	旭川市総合庁舎建替新築工事	54名
	8月29日	旭川工業高校 建築科1年	東神楽町庁舎複合施設整備工事	54名
	9月2日	旭川工業高校 土木科2年	ツインハーブ橋 橋梁点検 他	48名
	10月14日	富良野市立扇山小学校 6年生	旭川十勝道路 中富良野町 鹿討中央改良工事	57名
	10月25日	旭川市立知新小学校 6年生 旭川市立第一小学校 6年生	平成大橋長寿命化（耐震補強）その4工事	47名
	10月26日	旭川工業高校 土木科1年	永山東光線 他	41名
帯広協会	9月14日	帯広工業高校 環境土木科1年	一般国道241号帯広市平原大橋橋脚補強工事 他	53名
	9月21日	帯広工業高校 環境土木科2年	一般国道241号帯広市平原大橋橋脚補強工事 他	49名
	9月21日	帯広農業高校 農業土木工学科2年	一般国道241号帯広市平原大橋橋脚補強工事 他	47名
	10月20日	帯広工業高校 建築科2年	帯広市医師会看護専門学校校舎建設工事 他	50名
	10月20日	帯広高等技術専門学院 建築技術科1・2年	帯広市医師会看護専門学校校舎建設工事 他	15名
釧路協会	8月23日	釧路町立富原小学校 6年生	建設業体験授業	131名
	10月13日	釧路工業高校 土木科1年	北海道横断自動車道 釧路市 美濃改良工事 他	79名
	10月15日	中標津高等学校・中標津農業高等学校 他	広陵中学校長寿命化改修建築主体工事 他	56名
網走協会	8月26日	北見工業高校 建築科1年	やまなみ団地公営住宅建設工事 他	45名
2022年度 現場見学会 参加人数				1,476名

2021年度は27回実施、1,232名が参加。新型コロナウイルス感染拡大前の2019年度は39回実施、1,875名が参加。実施回数については感染拡大前の水準に戻ってきています。



～Instagramでみる道内助成事業～

北海道建設業信用保証㈱は、職員有志で運営するInstagramアカウント「HCSインスタ部 (@hcs.instaclub)」にて、当社の担い手確保助成事業のひとつである「現場見学会」の様子を、(一社)北海道建設業協会と協働し、取り上げました。

【稚内しんきん南支店移転新築工事（中田・石塚共同企業体）】



4月12日、稚内にて開催されました。対象は稚内市立稚内南小学校6年生です。児童たちにはスライドでの現場説明を受ける（写真中央）ほか、実際に建物内を見学（写真右）していただきました。最後の質疑応答の時間では、児童が自ら手を挙げて質問をしてくれました。

【旭川市総合庁舎建替 新築工事（新谷・荒井・高・田中・タカハタ共同企業体）、第2豊岡団地建替（2-B）新築工事（廣野・菅原・東成・谷脇共同企業体）】



6月2日、旭川にて開催されました。対象は旭川工業高校 建築科3年生です。新庁舎にて大雪山が望める9階展望ラウンジの見学（写真右）等を行ったり、豊岡団地にて足場を上り屋上を見学したりするなど、2か所の現場をくまなく見学していただきました。

URL : <https://www.instagram.com/hcs.instaclub/>

右のQRコードを読み込んでいただくと、

お手持ちのスマートフォン・タブレットで詳しくご覧いただけます。

フォロー・いいね・コメントお待ちしております！



建設関連ニュース

●和泉晶裕代表取締役社長が就任（北保証）

6月23日、北海道建設業信用保証（株）は第71回定時株主総会後の取締役会にて、和泉晶裕氏を代表取締役社長に選定した。

●2023年度保証事業重点推進方針を発表（北保証）

4月19日、北海道建設業信用保証（株）は記者会見を開き、2023年度保証事業重点推進方針を発表した。①発注者との連携の強化、②前払金制度の改善・利用促進、③保証業務のデジタル化の推進、④保証契約者との連携の強化・情報提供、⑤北海道の建設業の役割・魅力を発信、⑥道内建設業担い手確保助成事業による支援が柱となっている。

●2023年度道内建設業担い手確保助成決定（北保証）

北海道建設業信用保証（株）は、2019年度から開始し、最終年度にあたる2023年度道内建設業担い手確保助成事業の助成対象事業を決定した。助成対象事業数は33件、助成予定額は22,177千円となっている。なお、昨年度助成した、建設業等の知識で競うクイズ大会「コンストラクション甲子園」については今年度も要請があれば助成する。

本事業は、建設業団体が実施する道内建設業の担い手確保のための事業に対し、5年で総額1億円を支援するもの。24年度以降も業界の要望やニーズの把握に努めながら事業の継続を検討する。

●中間前払金導入102市町村に（北保証）

北海道建設業信用保証（株）は2022年度の前払金制度に関する改善・導入状況をまとめた。新たに前払金支払限度額を撤廃した市町村は奈井江町、網走市、広尾町の3市町村であり、累計159市町村（89%）となった。中間前払金に関しては、白老町、福島町、佐呂間町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、大樹町、広尾町、陸別町、中札内村、更別村、釧路町、標津町、羅臼町の15町村が新たに導入したことで、胆振管内・十勝管内については全市町村が中間前払金制度を導入した。

●5月末の道内建設業許可業者増加（開発局、道）

北海道開発局と北海道は、2023年5月末の道内建設業許可業者数をまとめた。知事・大臣許可の合計は1万9,458者で、前月から32者増となった。内訳は大臣許可が前月同数の160者、知事許可が前月32者増の1万9,298者となっている。

●被災地特例・前払金使途拡大特例の継続決定（国交省）

国土交通省は、2023年度直轄工事の前払金について、東日本大震災の被災県（岩手・宮城・福島）に適用している被災地特例を継続する。

また、前払金使途拡大の特例についても継続する。特例措置を採用している発注者と2024年3月31日までに請負契約を締結する工事の前払金で、同日までに払出しが行われるものが対象となる。

●CCUS・10月から更新手続き開始（建設業振興基金）

建設キャリアアップシステム（CCUS）の運営主体である建設業振興基金は、事業者登録の更新手続きを10月に開始すると発表した。事業者登録の有効期限は登録日から5年後の登録月の月末までである。特例として本運用前の2018年5月から2019年3月までに登録した事業者については、有効期限を2024年3月31日としている。有効期限の6カ月前、2カ月前、1カ月前にメールでの案内を送付することで更新を促す。建設業振興基金の2023年度事業計画では、更新事業者7,000社を目標に掲げている。

●道新幹線工事2.3兆円に増額（国交省）

3月31日、鉄道建設・運輸施設整備支援機構が2月16日付で国土交通大臣あてに申請を行っていた北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の工事実施計画の変更について認可を受けた。これにより、工事予算は1兆773億円増の2兆3,159億円となった。内容としては、当初認可額（用地・土木関係等）が1兆2,386億円、軌道関係・電気関係等が4,328億円、予期せぬ自然条件への対応等が6,445億円である。

6月16日に閣議決定した「骨太の方針」は、新しい資本主義を加速すべく、構造的賃上げの実現と「人への投資」の強化を中心的な政策として位置づける。労働市場改革のための各種施策の重要性を思う時、30年位前に聞いた精密機械メーカーに勤務する某友人の悩みが思い起こされる。

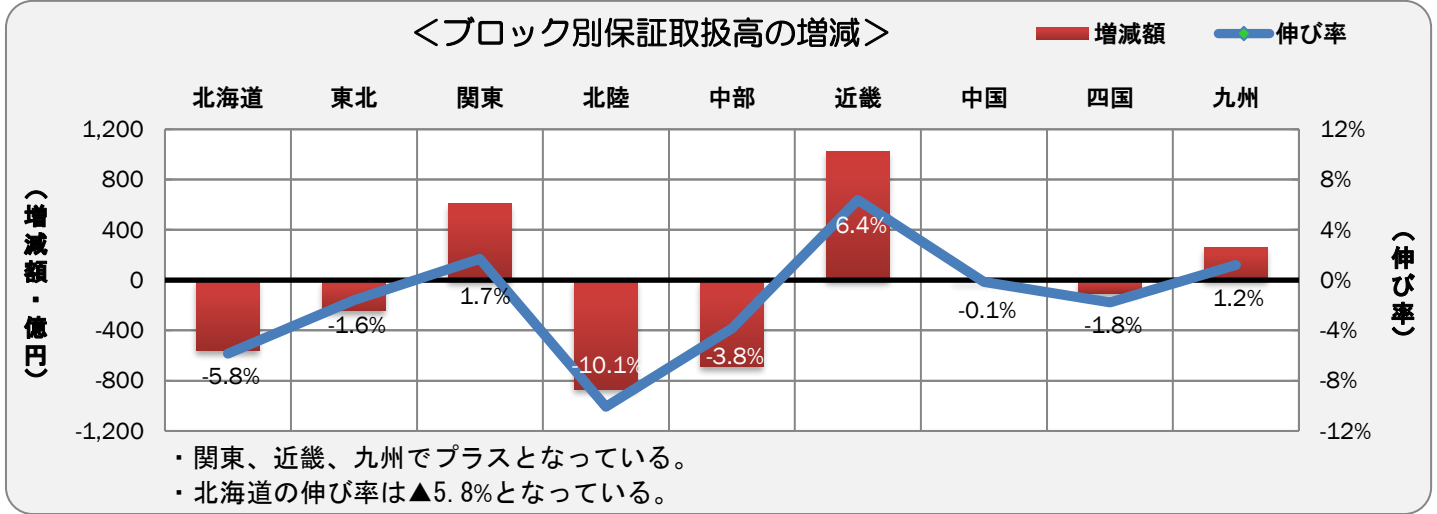
シンガポールの現地事務所に勤務していた彼は、持ち前のバイタリティで熱心に現地採用の若い技術者に指導・教育をしていた。優秀で勉強熱心で吸収が速く2~3年で即戦力になる。そうすると、4年目位で、心から会社への感謝の言葉を述べてそこで学んだ技術を持って欧米資本の企業に転職していくという。今日、日本は終身雇用・年功序列が崩れ労働市場が活発化しつつあるが、競争的労働市場のもとでは、人への投資と適切な処遇をセットで実現しないと、結局、人は条件の良いところに移ってしまうのだ。（H・S）



一目でわかる建設業データ

数字でみる公共工事

◇ブロック別保証取扱高（請負金額、2022年4月～2023年3月累計）



○請負金額3月累計額（3保証事業会社調べ）

（金額単位：百万円）

	請負金額	構成比	前年同期比較	
			増減額	伸び率
北海道	906,498	6.5%	-56,219	-5.8%
東北	1,504,283	10.8%	-24,286	-1.6%
関東	3,652,433	26.2%	60,887	1.7%
北陸	774,484	5.6%	-86,765	-10.1%
中部	1,723,561	12.4%	-68,854	-3.8%
近畿	1,709,524	12.3%	102,577	6.4%
中国	885,921	6.4%	-1,288	-0.1%
四国	571,720	4.1%	-10,266	-1.8%
九州	2,213,082	15.9%	26,261	1.2%
全国	13,941,512	100.0%	-54,953	-0.4%

北海道の建設業景況調査（2022年度第4回・1月～3月）

◇調査の概要

＜調査目的＞

北海道の建設企業の経営動向調査を行い、建設業のおかれている状況を総合的に迅速かつ的確に把握することを目的としています。

＜調査対象＞

当社と取引関係にある建設企業の中から、地区別、業種別、規模別の分布状況を考慮して、建設業の経営動向を反映するに足りると認められる企業を対象としています。

2022年度第4回の回答企業数は239社（調査対象255社、有効回答率93.7%）です。

業種別	回答企業数	完工高別	回答企業数
土木	117	3億円未満	31
建築	23	10億円未満	66
土木・建築	69	30億円未満	94
設備	30	30億円以上	48
合計	239	合計	239

＜B.S.I.とは＞

この建設業景況調査は、景気等に関して個々の建設企業の意識調査を行ったものです。この意識調査の結果を数値化して表したものが、B.S.I.（ビジネス・サーベイ・インデックス＝景況判断指数）です。

＜B.S.I.の求め方＞

景況調査の集計結果から、以下の方法によりB.S.I.が求められます。

$$B.S.I. = ([\text{良い} \cdot \text{やや良い}] \text{と回答した企業割合} - [\text{悪い} \cdot \text{やや悪い}] \text{と回答した企業割合}) \times 1/2$$



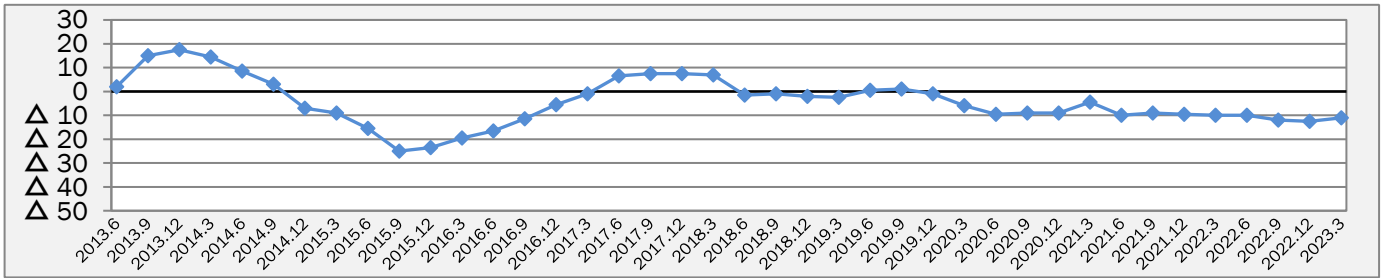
概観

[前期]-2022年10月～12月、[今期]-2023年1月～3月、[来期]-2023年4月～6月(見通し)

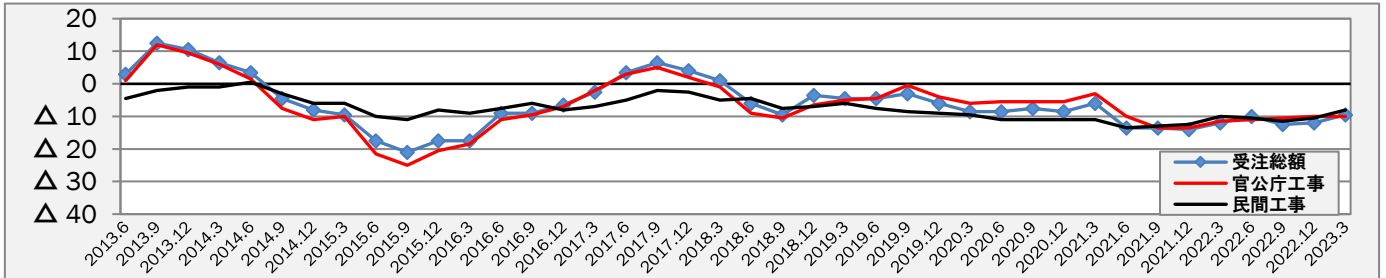
項目 (※印は季節調整項目を示す。)	B.S.I.値の傾向 プラスの傾向 マイナスの傾向	前期	今期	来期		
		B.S.I.値	傾向と推移 (前期に比べた今期の状況)	B.S.I.値 傾向と推移 (今期に比べた来期の状況)	B.S.I.値	
(1)業況等 地元建設業界の景気※	良 悪	いい 悪い	△ 12.5 悪い傾向が続いている	△ 11.0 悪い傾向がやや強まる見通し	△ 14.5	
(2)受注	受注総額※	増 減	減少 増加	△ 12.0 減少傾向がやや弱まっている	△ 9.5 減少傾向がやや強まる見通し	△ 14.0
	官公庁工事※	増 減	減少 増加	△ 10.0 減少傾向が続いている	△ 10.0 減少傾向がやや強まる見通し	△ 14.5
	民間工事※	増 減	減少 増加	△ 10.5 減少傾向がやや弱まっている	△ 8.0 減少傾向がやや強まる見通し	△ 11.0
(3)資金繰り※	容 厳	容易 難しい	4.5 容易傾向が続いている	4.0 容易傾向が続く見通し	4.0	
(4)金融	銀行等貸出傾向	容 厳	容易 難しい	8.0 容易傾向が続いている	7.5 容易傾向が続く見通し	7.0
	短期借入金※	増 減	減少 増加	△ 1.5 減少傾向が続いている	△ 2.0 減少傾向が続く見通し	△ 1.5
	短期借入金金利	上 下	上昇 下降	△ 1.0 上昇傾向と下降傾向が均衡を保っている	0.0 上昇傾向に転じる見通し	0.5
(5)資材	資材の調達※	容 困	容易 難しい	△ 16.5 困難傾向が続いている	△ 15.0 困難傾向がやや強まる見通し	△ 17.5
	資材価格	上 下	上昇 下降	37.5 上昇傾向がやや弱まっている	34.5 上昇傾向が続く見通し	34.0
(6)労務	建設労働者の確保※	容 困	容易 難しい	△ 23.0 困難傾向がやや強まっている	△ 25.5 困難傾向が続く見通し	△ 26.5
	建設労働者の賃金	上 下	上昇 下降	26.5 上昇傾向が続いている	27.5 上昇傾向がやや強まる見通し	31.5
(7)収益※	増 減	増加 減少	△ 17.5 減少傾向が続いている	△ 18.0 減少傾向がやや弱まる見通し	△ 15.5	

B.S.I. (ビジネス・サーバインデックス=景況判断指数) の推移

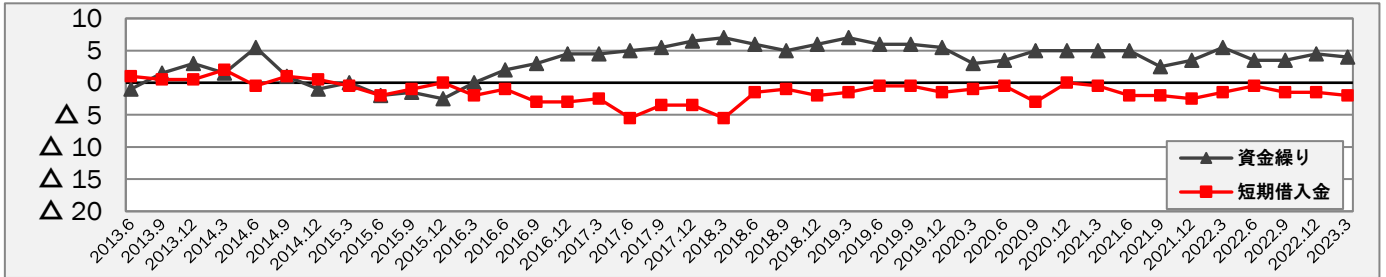
○地元建設業界の景気 (B. S. I. 季節調整済)



○受注 (B. S. I. 季節調整済)



○資金繰り・短期借入金 (B. S. I. 季節調整済)



○収益 (B. S. I. 季節調整済)

